

そうせい

1

2022

SOSEI

医療法人社団 綾和会 掛川東病院 桔梗の丘 広報誌

No.8



放射線技師
山田 花愛さん

臨床検査技師
高橋 沙織さん

臨床検査技師
大西 雄介さん

放射線技師
松本 壮平さん

2022年は、地域の声に耳を傾け、行政や住民との協働、小児を含むリハビリ事業の拡充、介護予防事業など地域から病院に求められる形を更に追求できればと思います。また職員の教育や電子カルテの刷新などソフト面でも利用していただけの方の安心・安全に繋がる体制を整えます。

本年も病院と地域の生活との架け橋となるよう尽力いたしますので、どうぞご期待ください！

2021年は、『存在していくてよかったを地域に』を病院のmissionに、回復期リハビリ病棟の拡充、訪問診療体制強化、超強化型介護老人保健施設の維持など、病院として地域と繋がる第一歩を踏み出しました。

また掛川東病院、北病院の共通総合窓口であるベッドコントロールセンターを立ち上げました。今まで以上に迅速な入院の受け入れが可能となり、より地域に寄り添った体制が整っております。

新年のごあいさつ



掛川東病院院長
医学博士 宮地紘樹

contents

特集

- 医師を支える医療チーム『コメディカル』紹介！
放射線科 検査科
- 管理栄養士のレシピ紹介！
- 院内イベントのご報告

検査科の紹介

検

査室には臨床検査技師が2名在籍しており、医師の指示のもとで患者さんの検査を行っています。検査業務は検査室で行う検査と、病棟に出向き、ベッドサイドで行う検査等多岐にわたります。

臨床検査の種類

臨床検査は、病気の診断、治療、健診に使われる検査の一つです。臨床検査は、大きく分けて『検体検査』と『生体検査』があります。人体から排泄される尿、便、また人体を流れている血液、髄液、そして人体を作っている細胞、臓器などの検体を使って体の異常を調べるのが『検体検査』、臓器の状態を物理的に捉える、例えば超音波検査や画像診断等が『生体検査』です。

生体機能検査

心電図検査

胸と両手脚に電極を付け、安静時心電図を測定します。記録した波形を正常な波形と比べて異常がないかどうかを判定します。

超音波検査

人間の耳では聞こえないほどの高い周波数で様々な臓器から反射する音を画像にして検査します。別名(エコー検査といいます。)放射線のように「被曝」がないため安心です。

検体検査

顕微鏡検査

血液、尿などの検体をスライドガラスに塗り、観察しやすくするために染色して、細菌の有無や形、量などを顕微鏡で観察します。感染の原因菌が推測できる場合もあります。

血液生化学検査

血液の成分を調べます。肝機能・腎機能・炎症の程度等を数値化し、体のどこに異常があるのかを判断します。

検査科の取組み

それぞれの病棟から求められる各種検査に柔軟な体制で対応し、迅速かつ正確な検査結果の報告に努めています。データの向こうにさまざまな病気を抱える患者さんがいらっしゃることを意識し、認知症領域検査技師等の認定資格取得をめざしながら、医師や看護師その他の医療技術職とともに、優しさと質の高い検査で地域医療に貢献したいと思っています。

放射線科の紹介

放 射線科では放射線技師が2名在籍しています。
医師の依頼のもと、さまざまな装置を用いて撮影し画像情報を提供しています。また、撮影するだけでなく、医師の診断や治療に役立ち、更に患者さんに説明しやすい画像の作成を心掛けています。

一般撮影検査では、X線を使用し骨や肺、胸部・腹部臓器などの疾患を部位ごとに撮影しております。デジタルによるCR装置を導入しており従来のフィルム式と比べ、コンピュータ内で信号を画像化することで画質向上・低線量・低被曝での検査が可能となるため、患者様の負担が少ない検査となっています。

モダリティの紹介と治療への取り組み

CT検査

16列マルチスライスCT装置を導入しています。X線発生器を体の周りで高速回転させて撮影することで、一般撮影検査では得られない体の輪切りの画像を作ることができます。被曝線量は、診断参考レベルに基づいて医療被曝の最適化を行っています。そして近年の技術の向上により、胸部から腹部までの広い範囲の撮影でも約10秒の息止めで撮影が可能となりました。撮影時間の短さと精度の高さから、緊急時の患者さんの画像検査では第一選択になる場合が多く、医師の診断の一助となっています。



ポータブルX線検査

ポータブル撮影検査では、一般撮影室まで移動することができない患者さんの為に病室に回診用X線撮影装置というレントゲンの機械を運び撮影することができます。ポータブル撮影装置は院内回診、緊急撮影だけでなくインフルエンザや新型コロナウイルス等の感染症のパンデミック時や地震などの災害時での撮影にも対応できる装置となっています。



嚥下造影検査(VF)での治療への取り組み

この検査は、健康診断で行われる透視検査と同じように、レントゲン透視装置を用い、造影剤を混ぜた模擬食品を食べたり飲んだりする様子を、映像として記録・観察するものです。検査中は医師、放射線技師、言語聴覚士、看護師が同席して行います。脳梗塞やパーキンソン病等の疾患や加齢等が要因となり、食べ物や飲み物をうまく飲み込めなくなることを「嚥下障害」といいますが、この「嚥下障害」について詳しく調べることのできる検査の一つに、「嚥下造影検査(VF)」があります。この検査により、口やのど等、各部分の動きや食物の流れを確認しながら誤嚥の危険性を評価することができます。そして同時に、姿勢や食物形態を調整しながら、どうすればうまく食べられるのかについてもチームで検討していきます。

